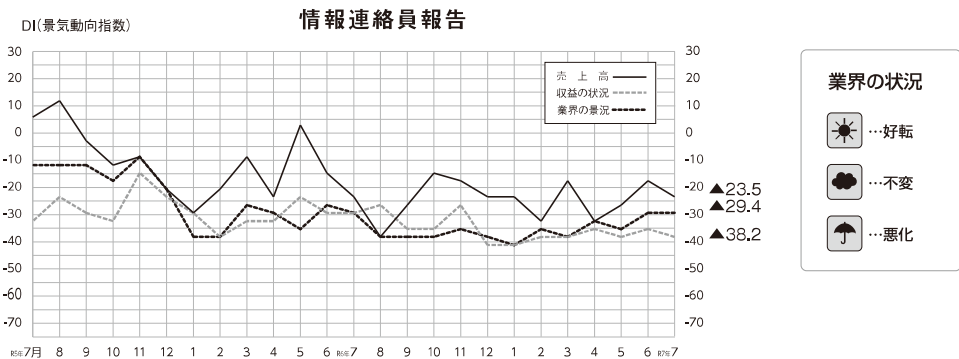




2025年7月
(前年同月比)



	電気機械器具小売	7月度は全商品平均で前年比108%。エアコン前年比109%。リフォーム関連商品は金額で前年比108.6%、4K8Kテレビ前年比96.4%であった。
--	----------	---

	食品団地	7月度高騰は好調であった。県外への出荷は、増加傾向であったが、県内市況はやや増加。販売価格は上昇気味であるが、収益性をカバーするには至っていない程、原材料・資材・エネルギー価格の高騰が悪材料となっている。
	テントシート	原材料の高騰について販売価格への転嫁ができていこうと思われる。このような状況の中、7月より一部製品の値上げがあり、まだまだ厳しい状況である。
	木製品素材生産	7月期の出材量は、減少気味となっている。これは、人手不足が要因の一つとなっている。また、地域によっても増減が見られる状況である。丸太価格については、製材品の動きが少し良くなってきているようではあるが、樹種や大きさにより多少の違いはあるものの全体的には横ばい状況。今後も大きな変動は見込めない状況であるが、秋口以降に期待。
	建具	公共工事、個人住宅共に仕事量は少ない。小さい現場の見積もりは少しだけ増えた。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体の販売金額及び生産量は、前年同月比で上回った。その中で雑種紙は、販売金額・販売量・生産量のいずれも前年同月比で上回った。一方で、紙製品全体の販売量は前月に続き、前年同月比で下回った。
	製紙(手すき和紙)	原材料、諸経費の高騰が続いており、厳しい状況は変わらない。今月の販売金額は前年同月を少し上回ったが、依然として厳しい状況が続いている。
	生コンクリート製造	7月度の組合員の単月出荷量は、対前年比83.9%、4月からの累計出荷量も対前年比83.0%で若干増加傾向がみられるが、引き続き低調であった。地域的には、嶺北地区の減少幅が大きく、早明浦ダム関連工事の影響が考えられる。
	コンクリート製品	対前年同月比128.0% 先月まで昨年度より低調であったが、今は持ち直した。今後もこの傾向が続くと考えている。
	刃物製造	発送待ちの品の付属品が入荷し、やっと出荷することができ売上を大きく伸ばすことができた。今後もこのような状況が続くのもかもしれない。今後もこのような状況を見て対応していかなければならない。
	機械団地	先行き不透明な国際情勢により顧客の受注動向に影響が出ている。雇用を確保していくうえで今後賃上げ分の価格転嫁が課題となる、といった声がある。団地内の業況は横ばいから下降気味で推移している。
	船舶製造	7月納期の契約数が少なく、昨年より売上高は減少したが全体の仕事量は維持している。
	珊瑚装飾品製造	7月度の取引額は前年同月比で280%となり、3カ月連続で前年を上回る結果となった。今年度より、年2回実施していた製品大会を年3回に増やしたことが、前年同月比の大幅な増加に寄与している。今後の月度取引額については、減少傾向に転じないか、引き続き注視する必要がある。
	生鮮魚介卸売	とにかくカツオの入荷量が少ない。この時期は特に天候に左右されてしまう。8月に期待!
	中古自動車小売	オークション流通量の減少により相場が徐々に上昇している。普通車、軽自動車ともに高年式車両の販売台数が多いので、平均単価は高いが収益はそれほど上がらない。

	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の103.3%(889台増)、料金収入は前年の102.9%(261千円増)。夏の恒例イベントである「土曜夜市」が、7月の毎週土曜日に開催され、例年通り多くの来街者で商店街は大変な賑わいを見た。人流カメラのデータによると、開催された4回全てにおいて、前年同時期を上回る入出が確認され、5地点・16時～20時の合計で前年比20.4%増となった。これにより、地域のにぎわい創出および商店街の活性化が図られた。7月のクルーズ船の入港は10隻にのぼり、前年の4隻から大幅な増加となった。入港日には午前中から多くの外国人観光客が商店街を訪れ、こちらも大きな賑わいを見た。
	商店街(四万十市)	急に暑くなり、中旬には帰省客がぐっと増えた。各商店街は市民祭の準備に追われている。そのため、土曜夜市は8月に延期した。
	旅行業	組合クーポン前年同月対比40%、全旅クーポン合算後97%。7月までの総売上は前年度対比107%、秋の旅行シーズンに期待を寄せている。新規組合員1社加入の見通し。
	IT事業	売上は前年比で約26.1%減少となった。前月は増加していたため、今月も継続的な増加を期待していたが、本格的な回復にはまだ時間がかかりそう。この1～2年で、大きめの毎月の定額案件が複数終了したことも売上減少に影響しているようだ。7月からは新しい期がスタートし、11月には設立20周年を迎える節目の年となる。来月以降も、最新技術や情報に関する教育・研修、勉強会を通じて、組合員全体のスキル向上や連携強化など、本格的な単価アップを目指す取り組みが急務であると考えられる。
	一般土木建築工事	工事の発注件数は例年とほぼ変わらなかった。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事業量は、前年同月比72.1%となった。高知中央地区が前年同月比67.8%、同じく香長地区が87%となったことが影響している。
	一般貨物自動車運送	組合事業は前年を若干下回った。燃料価格は円相場が円安に振れたこと等により数円の値上げとなった。物流効率化法が4月に施行されているが、なかなか浸透しない状況でドライバー不足が運航に影響しているにもかかわらずドライバー確保のための体力がない企業が多いのが現状といえる。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:105.1%、回数:106.8%、実働率:50.0%。高知の風物詩、よさこい祭りの季節となった。観光客も増えるのに加えて外国客船も寄港予定等、需要は多くなるが運転者不足が続き、どうなることかと心配である。タクシー会社の責任のもと、ライドシェアを頑張っている会社もあるが…。

	酒類製造	出荷量はやや減少。猛暑にも一因か。インバウンド対策等新たな市場対策が必要。相変わらずの原料米高騰による、商品価格改定も具体化。輸出もやや伸び悩み。
	製材	新設住宅着工件数の全国的な減少傾向に歯止めがかかっておらず、業績見通しは厳しい。
	印刷	先月に引き続き操業度低下。県外需要は回復傾向、県内需要は相変わらず厳しい。県外の増加を県内需要のマイナスが上回り操業度が低下した。
	卸団地	酷暑の影響か、選挙の影響か、物価高の影響か、宴会関係の動きが非常に鈍く、市内中心部などの居酒屋等は苦戦を強いられている。景気回復は感じられない。
	青果卸売	7月の取引高は組合員全体で前年対比90.1%となった。野菜の入荷量は前年並みだが単価が下がりが不調。果物は単価は上がったが、お中元商戦など販売は思うように伸びなかった。今年の1月から7月までの累計でも95.8%となり厳しい状況が続いている。
	各種小売(四万十町)	地域の経済状況に大きな変化は見られない。商店街で毎年恒例の夜市も開催されるなど季節特有の行事は行われているものの、地域の小売商店にとっては小康状態である。当会のポイント発行事業も、発行ポイント・利用率とも変わらず横ばいで、次月のポイント5倍セールスの状況を注視している。
	ガソリンスタンド	7月の新補助額は10円を超えていたが、月末には10円となり政府の補助金限度額に達している。政府からは、暫定税率の廃止を年内にもやるとの声もでており、販売価格が下がることは確定である。暫定税率はガソリンには25.1円の税がかかっており、現在国からは10円の補助が出ているため残り15.1円の値下がりということになる。あとは方法だが、5円ずつ分割するの一気に下げるとかまだわからないが、これはあくまで税金の話で、税金は下がっても原油が上がりれば売価も変化する。政府の動きに注視していきたいと思う。
	商店街(安芸市)	「安芸市家計支援クーポン」が配布されたので、消費者の購買意欲の促進に期待する。
	旅館・ホテル	宿泊予約状況が、前年に比べて弱く、先行きが不安視される。7月に大災害が起こるという風評がインバウンド客減少に影響した模様である。9月以降の団体予約も前年比で大幅に落ち込んでいる。
	飲食店	高知市中心部でも集客は前年度をやや下回り、県の東西部では更に悪い。全体としてはコロナ禍以前との売上比較で約8割～9割。物価高により県内消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚束ない。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	消費者の物価高による節約志向の高まり、衣類のカジュアル化による家庭洗濯ができる品物の増加など、需要の減少傾向がより一層進んでいる。またエネルギー価格や資材価格の高騰、労働力不足などが重なり、収益状況は厳しい。度々の価格転嫁は顧客離れにつながる恐れがあるの思いから、これ以上の改定は難しい。リネン、一部の高級志向ホームクリーニングなどは堅調。